

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 ヒューマン・ケア
(ユニット名)	すずらん
所在地 (県・市町村名)	熊本県合志市幾久富1909-700
記入者名 (管理者)	作田弘美
記入日	平成 20 年 1 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域との方々とのふれあいを大事にしたいということで、日々のケアも行っているが、スタッフ全員が理念を十分に理解するまでには至っていないので、もう少し、努力する必要がある。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の理解が充分でないため、日々の実践に向けての取り組みがまだ不十分であるように思う。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	まだ、不十分であると思われる。今度、もっと、地域の方を中心に理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議時に、地域の高齢者の方々の状況など、情報提供して頂いたり、普段来られる地域のボランティアの方やご家族等からのご相談等に対応している。</p>	○	<p>地域貢献がもっと出来る様、今後も私たちの認知症ケアが、地域の方々のお役に立てるよう取組みたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を受け、指摘やアドバイスがあった事項については、まず、経営者と管理者間で、討議を行い、スタッフにも、会議を通して、考える機会とし、また、運営推進会議において、報告し、意見を頂くようにしており、改善について、全スタッフ前向きに取り組むようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回実施している。運営推進会議において、ホームの取り組みを報告したり、広報誌を配布し、日頃の入居者様の様子をお伝えしたり、年に1度は、写真上映会を行って、よりわかりやすい、入居者様の表情等も伝えられるようにと取り組んでいる。また、外部評価の結果を報告し、ご意見も頂いている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通し、存在がとて近づいた感じがする。そのため、窓口での相談等もとてもやりやすくなった。市の考えを聴く機会も以前と比べ増えたように思う。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に何度か参加し、学んでいっているところだが、実際に活用した事は無く、難しいという印象がある。繰り返し学ぶ事により、必要時に活用できる様にしておきたいと考える。</p>	○	<p>今後、ホーム全職員が理解し、活用できる様に、勉強会を設けたり、研修会がある時は、出来るだけ参加させる様に取組みでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフの中には、つい口調が強くなる時もある為、対応のあり方等に対して、事例を通して振り返りを行う機会を作り、エスカレートしないように、皆で考えていったり、スタッフ間の関係を借り、ストレスを溜め込まないよう支えになってもらったり、スタッフと出来るだけ話をするようにしている。</p>	○	<p>定期的に学習会を行い、今の自分のケアのあり方の振り返りが出来るよう取組み、スタッフのストレスマネジメントが出来るよう学んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時等出来るだけ十分な時間をとり、納得のいく説明をすり様に心がけており、また、その都度不安に思われる事などある時は話をするようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満というより要望をいわれる事があるので、出来るだけ要望に応えられるように配慮している。	○ 何でも言える雰囲気作り、関係作りにも努めていきたいと考える。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の急変時や事故等の時は、その都度報告している。また、事故等については、その後の経過報告もしている。健康状態、精神状態も併せ報告及び相談など行っている。金銭管理は金銭出納帳をつけ、領収証と併せ毎月報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会のときなどに、意見を聞く機会としたいと思っているが、なかなか遠慮されているため、意見が出てこない。ご家族の態度や表情、言葉などから思いを推察したり、ご家族の立場になって考えられるよう努めている。	○ ご家族も言えない事が多いと思うので、少しずつ言える雰囲気作り、関係作りにも努めていきたいと考える。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月、社長を入れた方針会を作っており、その機会を利用してスタッフの意見を聴くようにしている。しかし、なかなか意見がいえないうということもあるので、場合によっては、ユニットごとのミーティングを行って、意見をまとめてもらったり、方針会にあげてもらおうようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状況などで、必要な時間に、人員を確保できるよう、早出の時間帯や遅出の時間帯等の見直しをし、勤務調整を図っている。利用者様の急変や急なスタッフの病欠者発生などの状況に合わせ、超過勤務命令などで対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のすむを得ない離職や本人の将来に関することでの離職の場合がほとんどである。が、退職者が続き、片方のユニット内に新人スタッフが偏る結果を招いた事が1回あり、ユニット間の移動を行ったことがある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	ブロック内「交換研修」も違う事業所にそれぞれが行けるように、今後も是非継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	常にストレス軽減を考え、今後個人面接などを考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、必ずしも当ホームで受け入れられるとは限らないため、他の事業所さんを紹介したりしてる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様が安心して、納得した上で利用開始するというシステムまでには、なかなか至っていない。面談を兼ねて、一度ホームに遊びに来て頂いたり(他の入居者様とお茶等を頂く等)、体験入居を3日(半日)位試みた程度しか実際は出来ていない。	○	入居前に、ホームに馴染み、他の入居者やスタッフにも馴染まれるよう、十分な準備が出来れば良いとは思いますが、なかなか難しい状況である。少しでも出来るよう考えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事作り、洗濯たたみなど、利用者様と一緒にしている。手伝ってもらう事に対して、感謝の気持ちを伝える。昔ならではの漬物作りや味噌作り、餅つき等の時には、利用者様から学ぶ事も多い為、そのことをお伝えすると喜ばれる。利用者様からも、ケアに対しての感謝の気持ちを伝えられる。そういう支えあいの関係が出来てきていると思う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子をきちんとお伝えし、ホームもにて解決するのではなく、相談しながら取り組んでいくなかで、共に悩み、喜びを分かち合っていると思う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族への連絡を密に行い、家族の思いを受止めるとどうじに、ご本人の伝わりづらい思いやあ、感謝の気持ち等代弁して伝えていく。その上での関わりを作っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(墓参りや家の周辺やご近所等)に外出の機会を設けたり、友人の訪問があったり、電話があったり、出来るだけ関係が途切れないよう、又来て頂けるよう、お話ししている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士支えあい、協力し合っている良い関係が築けている方もいれば、波長が合わない方もいる。トラブル時の自己解決力を把握し、仲裁のタイミングをみて、調子の悪い方の方の手助けを行い、スタッフがあまり先回りしすぎないように注意する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の様子を家族に尋ね、合いに行ったり、ご家族へもホームに来訪しやすいよう、訪問して頂けるようお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを言葉に出来る人は、ご本人とお話をしているが、思いを表現できない方には、ミーティングを利用し、家族からの情報を基に、ニーズは何なのか検討するようにしている。	○	真のニーズの導き出し方に自信がない場合がある。学びを深めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、情報の収集に努めている。	○	センター方式記載がまだ不十分であるため、情報収集からきちんと行う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	経過記録、申し送りやバイタルの変化などを把握した上で、ご本人の状態、状況を観察していく。ここ最近の様子の変化などは、必ず申し送り、カンファレンスしながら、スタッフの注意を高めるようにする。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスや、事例検討会を行い、課題に対して建徳を重ねている。ご家族にも相談しながら、話し合いを行っているが、十分に話し合いが出来る家族の方もいれば、不十分な家族もおられる。	○	家族の中には忙しくされている方もいて、話し合いの時間が不十分な方もいる。今後、もっと家族の協力を得ていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定期間だけではなく、状況変化時も、その都度見直しをしている。	○	見直す時期が少し遅れる場合もあるので、タイムリーに対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に細かく記録する事で情報を多く得ることが出来るため、SOAP式記載をしている。又、情報の共有という事では、記録式だけではなく、重要な事に関しては、申送りノートの活用、口頭での申し送りをし、情報の共有に努めて、実践、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に合わせて、夜の電話や面会、週末外泊やご家族の宿泊やご家族との外出・買物・外食等と行えるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。消防の方には、年2回来て頂いて、防火訓練・救急蘇生法の講義・実施指導など行なっている。その他、相談にもなっている。園児・児童との交流も盛んで、三つの木の家(研修施設)の研修にも、ホームとの交流が盛り込まれている。又、ボランティアや民生委員さんや、自治会長さんの協力も得られている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族と話し合い、必要であれば、他の事業者と話し合い、説明に来て頂いたり、相談にのっていただいたりもしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方には、運営推進会議のメンバーに入って頂いて、連携の一步を図ろうと試みてきたが、忙しいのが現状のようである。今後は、必要時、相談なりしていくこととなる。	○	必要時、連絡をとっていきよう心がける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、通院介助は、ご家族で行って頂いている。しかし、認知症専門医の受診を受け、検査終了後、説明を医師よりされる時は、ホームの管理者も立ち会うようにしている。できるだけ、必要なかかりつけ医は継続していただくが、急変時の対応なども考え、ホームの協力医療機関での定期往診は受けていただくよう、働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	まだ、家族の思いと、ホームの受け入れ体制に差があると思う。今後の課題で。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	実際、看取りを行ったことはないが、状況が揃えば、看取りができないわけではないということで、スタッフ教育は行っていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>まだ、不十分であるため、スタッフ同士、学びあいながら、ケアのあり方を考えるようにする。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、その人に合った誘導や見守り、オムツ使用を心がけている。歩行能力のある人は、トイレ使用を徹底させている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や回数など個人の希望を出来るだけ取り入れているが、殆どの方が、介助と見守りが必要なため、夜間の入浴は出来にくい現状である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンが異なるため、まず把握をしてその中で安眠できる様にしている。不眠にならないように適度な運動、散歩も実行している。運動の後や食後、外出後などまずお茶を飲んでリラックスしてもらって、午睡を促したりしている。居室での午睡を嫌われる方もいるので、茶の間で横になってもらって、休養していただいたりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴をセンター方式で把握し、それ以外でも本人との会話で情報を引き出し、過去の経験を活かせるように留意している。毎月のボランティアさんによる、歌の会やお話の会や日舞の会、その他、誕生会、ドライブ、体操レク、フラダンス、フルートコンサート、コーラス、園児や児童の訪問、花の手入れ等楽しみにされている。又、学習療法も生活の張り、		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご自分でお金を管理されている方はいない。お金を使える支援は行っている。その方の能力にあわせ、必要であれば、お金は所持して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は少し寒くなって外出の機会は少なくなっているが、公園への散歩や買物、ドライブ、花見、紅葉狩りなど行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	泊りがけでの外出はまだ実現できていないが、スタッフがお弁当を手作りし、入居者と阿蘇方面など遠出をし季節を感じて頂いたり、旅行気分を味わっていただけるよう、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望は、電話をスタッフがかけて差し上げている。ご自分でかけられる方に対しては、かけていただいている。あまりにも、電話要求の強い方に対しては、ご家族と相談しながら、電話の回数を調整したり、場面の切り替えなどケアについて検討していく。手紙についても、代筆が必要ならば、代筆の支援も行っている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問は可能で、リビングや居室と、お好きな所で、ゆっくり過ごして頂いている。宿泊の希望があれば、宿泊して頂き、食事と一緒に同じ物を食べて頂いている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は極力しない姿勢でケアを実行している。	○ 身体拘束はしていないという決めつけてきな考えから、あまり、勉強会なども行っていなかった。しかしながら、色んな拘束があるので、振り返りも必要である。学習会も取組んでいこうと考える。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として、日中の施錠はしていない。外出がすぐに分かるように中庭を見渡し、所在の確認を行いながら日々のケアを行っている。又、外出傾向が強い不穏時には付き添う事を努力しており、家族への相談も行っている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ほぼ、利用者様に所在は把握している。スタッフが位置するところは、充分に見渡せるような場所で、席を外す時は声をかけるようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様それぞれにとって、危険度の高いものについては、お預かりしたり調整を行っている。異食の可能性の高い方の場合は、口にして危険な物は、居室内や手の届く所には置かない様にしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書を記載する事で、振り返りを行い、早めの対策を考え、再発防止に取り組んでいる。又、緊急時マニュアル・緊急連絡網・利用者様の病歴ファイルを設置し、緊急時にスムーズな対応が出来る様にしている。又、火災に関しては、防火管理者を決め、年2回の防火訓練も実施し、日常点検の意識を高めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回、消防署より、署員の方に来て頂き、救急蘇生法や、応急手当などの研修を受け学習している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難・通報訓練を行っている。(日勤帯設定・夜間設定) 運営推進会議などを通して、地域の方々への協力要請を行っている。又、ホーム前のアパートの方々には、行事等へのご案内を行なうなどして関係作りに努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の可能性が高い方や、離設の可能性の高い方、考えられるリスクについて、説明を行っている。しかし、リスクと自由は背中合わせであり、自由な暮らしを優先させる時、ある程度のリスクはつきものである。ホームの方針として、その方の自由、生き生きとした生活を考えていきたいと考えている。このことは、入居時に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の経過記録の中に小さな変化も記録し、身体状態の変化や異常の早期発見に努め、異常時は、早目の受診(往診)をする様、対応に心がけている。また、健康状態に関する記録を、観察ケアチェック表に記載している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用、用法、用量については、薬局より説明書を必ず貰っている。又、不明な点については、薬剤師の先生より直接、説明を受けるようにしている。又、服薬チェック表を用い、配薬準備時のダブチェックを行うようにしている。又、処方内容変更時は、スタッフ全員に行き渡すよう、申し送りを行う。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食材の使用、牛乳やヨーグルトの飲用、水分摂取に留意し、毎日の運動を取り入れている。又、必要時、腹部マッサージを行ったり、また、便秘がひどい方は、個別的に毎日プルーンやヤクルトを摂取されている。又、月1回は主治医による受診を受け、腸の具合をチェックして頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた口腔ケアの支援(声かけ・見守り・介助)を、毎食後に行っている。又、義歯は週1回は義歯洗浄剤による消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った量等を把握し、盛り付け時、量の調整、盛り付けの工夫、形態の配慮(キザミなど)、又、水分がとりにくい方へは、出来るだけ食事や他の食物から水分が入るよう工夫している。また、調理師による栄養評価も実行している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の業務の中に、消毒、換気、手洗いなどを実行し、冬季は各居室での加湿器使用をしている。又、全スタッフ、利用者様のインフルエンザ予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間に、ハイターなどで、除菌する、調理器具は、食器乾燥機による乾燥を行う。食材の保存方法にも気を配り、食中毒の発生しやすい時期には、出来るだけ、調理方法も十分に加熱するように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外門は開放し、出入りしやすいように心がけている。施設としての圧迫感がないように、木や花を多く植え安心と温かみのある雰囲気を作り出せるように環境を整えている。花は、地域のボランティアさんの協力により、季節ごとに植えかけをして、季節の移り変わりを共に喜べるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からリビング、共有の場まで出来るかぎり家庭的な雰囲気が味わえるように装飾品には気を使い、季節の花や絵を飾るなど無機質な感じがしないように心がけている。日ざしの加減については、利用者様に尋ねながら調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体、所定の場所がいつの間にか決まっているが、その時の気分で別の場所でもくつろげるよう利用者様一人ひとりが、好きな場所にいられる様に、いくつかに分けて椅子を置いたり、位置を十分に検討し、問題があればすぐ検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、思い出の物、慣染みの物を持って来ていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機の利用、又、午前・午後と換気を行い、温度計、湿度計を用いて毎日チェックしている、冬は空気も乾燥しているので、加湿器を利用している。特に梅雨の時期は、除湿機の利用も行っている。換気扇やエアコンのフィルターの掃除をこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、ほとんどがバリアフリーとなっている。また、歩行が不安定な方にも、手すりを廊下につけてある事で、安定した歩行が出来る様に工夫されている。ドアもほとんど引戸にし、ご自分でな開閉がしやすくなるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングかた見える中庭には、季節感が味わえるように、季節の花々を植えるようにしてる。又、リビング内にも、季節の花などを飾り、飾りつけも、その季節を味わえる物にして、会話に盛り込んでいく。中庭で、自由に花の手入れをされる利用者様を見守る。食事の準備も、その方の能力にあった準備(切る・洗う・盛るなど)を一緒に行う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には、いつでも自由に行けるようになっており、季節の花々が植えてあり、ベンチも置いてあるので、中庭でゆっくり楽しんでいただけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

周囲の環境が良好で、隣には、明るい広々とした公園があります。施設内も利用者様が安心して心安らげるような環境を整えています。コの字型の建物の真ん中には、中庭があり、季節の花や木々が植えられています。この花の植え替えは、地域のボランティアさんの協力です。又、日頃の手入れも利用者様と一緒に頂いています。近くの南ヶ丘小学校の緑化委員の児童の皆さんは、学校でプランターに種を蒔き花が咲いたところで、利用者様との交流も兼ねてホームに届けてくださいます。又、園児や学童児、ボランティアの方々が自然と集えるように交流室を設け、広い範囲で交流が出来る様にしています。現在は、定期的な交流が実行できており、ボランティアさんの数も増えていっています。

入居者様も、来訪者の訪問を楽しみにされ、お茶を出したりとおもてなしされます。更に、各種のコンサートや専門分野での勉強会の場としても施設を有効に活用しています。多くの交流を通して、色々なことを学び、自分たちも地域に貢献できるよう、日々努力しています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 ヒューマン・ケア
(ユニット名)	花むずき
所在地 (県・市町村名)	熊本県合志市幾久富1909-700
記入者名 (管理者)	藤田 節子
記入日	平成 20 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今年度の目標として、理念の共有と実践を掲げていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族へは行事を通して繰り返し伝えていき、地域の方へもいろいろな機会を通して伝えていくように、今年度は力を入れていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近くの公園へ出向くことで地域の方との交流をさらに深めていき、また、自治会活動への参加など今後考えていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行政関係や高齢者部会、民生委員などから見学や研修依頼があれば積極的に受入れ、常に役に立てるように心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の件で話し合う機会は会議を通して多く持っており、自己評価も毎年スタッフ全員で行い、統一した意識を持つよう努力している。評価の結果に対しても、全体で認識し改善策を考えていくようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行い、ホームの状況は詳しく報告している。1年間のまとめとして、毎年入居者様の生活状況をまとめあげたビデオ上映会を行っている。外部評価の結果も会議にて報告したい対応内容を話し合う機会を作っている。	○	会議の内容がまだ浅く、入居者の現状やケアなどに対し話し合いを進め、一緒に取り組むまではいっていない。サービスのあり方などももっと深く話し合いを進めていく必要がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい話し合う機会を作っているが、その他相談があればその都度窓口へ行ったり、電話での連絡をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会を持っているが、スタッフは難しい内容であるた、えまだ持っていない。ただ、家族からの相談があれば、管理者がきちんと対応出来るようにしている。	○	難しい内容ではあるが、今後認知症の方には必要となってくる分野なので、スタッフと共に勉強する機会を作っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は学ぶ機会を持てているが、スタッフは持っていない。虐待に関しては十分配慮していると思うが、知識は不十分である。	○	気をつけているつもりだけではなく、関連法をきちんと読み込む機会を作り、スタッフと共に学んでいくようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはできるだけ時間をかけて説明し、理解が得られるようにしている。また、疑問があればいつでも聞いて頂ける様に説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者と話す時間はとれているが、意見や苦情を聞き出すことはなかなかない。自分からきちんと訴えられる方はほとんどいない。	○ 話す時間を十分取り、入居者が本音を伝えられるような人間関係を構築していくよう努力したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活や健康状態は面会の時やケアプラン説明時に詳しく報告し、年に一度入居者の日常生活のビデオ上映会も開催している。金銭管理は、毎月現金出納帳のコピーを送付し確認してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付のポストを常設しているが、その他気軽に言っただけのように面会の機会にこちらから話しかけ意見がないか確認している。また、運営推進会議で家族代表との話合いもしている。	○ まだまだ苦情を気兼ねなく言える体制がとれていない。伝えるにくいという現状もあると思うが、接する時間を設け、できるだけ話しやすい態勢をとっていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の「方針会」で、運営者、管理者、スタッフ全員での話合いを行っている。運営者から直接運営状態や意見を聞き、また、各係りからの連絡事項などもあり、多方面での意見交換の場が出来る。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせて勤務時間を設定している。入居者の状態が変わり対応が難しくなれば、その時点で時間調整を行っている。その際スタッフとの話合いを持つようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては慎重に考え、話合いを持つようになっている。異動の必要性も少なからずあるため、最小限度に抑えるように考慮している。離職はここ一年は少なく安定してきている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通し研修参加を積極的に行っている。勤務として参加させていることを多いが、スタッフ自身で積極的に研修を受けていく姿勢が持っており、資格取得者も多い。また、月に一度勉強会を定期的に行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック内での連絡協議会研修に積極的に参加し交流を持ち、いろいろな勉強をしてきている。また、「交換研修」としてお互いの事業所からスタッフを実習として出し、各事業所を現場で勉強しあうシステムをとっている。何よりも勉強になる研修という意見が出ている。	○ ブロック内「交換研修」も違う事業所にそれぞれが行けるように、今後も是非継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	決まった休憩時間がとれるように現場から離れてもらうようにしており、勤務もハードにならないようにシフトを十分考慮し、定期的に有休を入れている。ただ、休憩室の環境が休息できる環境に十分でない。	○ 常にストレス軽減を考え、今後個人面談などを考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者、職員の実績や勤務状態は把握しており、出来るだけ一人ひとりきちんと会話できるように努力してる。一人ひとりの能力を伸ばしていけるように「方針会」の場で伝えるようにしてる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みがあった時点から困っている事は十分聞くようにしてる。入居前には慣れていただくために2～3回お客様として来ていただくようにし、その中で不安な様子などないか観察している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申込があった時から十分話す時間をとっている。入居者や家族が抱えている問題を、できるだけ早期に把握したいと考えている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期(入居前(の段階でスタッフ全員で話し合いを設け、まず必要なことを見極めてサービス内容を決めている。他のサービスが必要な時は、その時点で紹介するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	突然の入居となり混乱されないように、入居前に2~3回訪問してもらい、場所や他者に少しずつ馴染めるような機会を作っている。その際家族とも十分話し合うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活の中で、できるだけ入居者と一緒に家事やその他の作業をする様に心がけている。一緒に家事をしたり寄り添うことで楽しい事や悲しい事も共有できると考えており、その中で学ぶ事も多々あっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	不穏が強い時、身体レベルが落ちてきた時、帰宅願望が強い時等、その時に応じてスタッフだけではなく、家族とも話し合う機会を設け対応策を考えるようにしている。受診も家族の付き添いを原則としている。	○	どこまで家族に話したらよいか迷うこともあるが、現状として同一の認識を持つために、相談として伝えていくようにしている。ただ、GHと共に本人を支援していく立場という家族の認識にはかなり差がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前からの情報として「センター方式」を利用し、詳しい情報を得るようにしている。また、家族関係が難しいところには間に入り、伝えたりクッション的役割が果たせるように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的には本人と家族が望まれるもの、あるいは事柄を継続出来る様にしている。現在地域サロンに毎週通われる入居者もいる。ただ、受診に関しては家族負担が大きいということで、事業所の往診医に変更される場所が多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングではみんなと過ごすようにソファなどの位置を検討しており、みんなの顔を見て会話したり、一緒に洗濯物をたたまれたり、歩行が不安定な方を他の入居者が手伝ったりされている。ただ、孤独を好まれる方もおられるため、それを尊重している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	はがきを出したり、入院先や施設入所先などには訪ねて行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに受持ちのスタッフを付けておりゆっくりと話をしたり、関わりが持てるようにしている。本人の意向を出るだけ聞きだせるように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネージャーが把握するように心がけているが、生活歴や馴染みの暮らし方など、受持ちスタッフが少しずつ把握できるように努力している。ただ、完全に把握する事は難しい。	○	日々の生活の中で関わりを多くもつことによって、知る事も多いと思うので、日頃の関係を大切にし寄り添う時間の確保に努める。また、面会時に家族と話し合う時間を持つ努力をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの過ごし方や心身の状態が違うため、それにあわせたケアを提供できるように十分観察を行い、記録の中からの情報収集も注意を払っている。また、センター方式をできるだけ利用するようにしている。	○	ケアマネージャーが現場にいない時の状況や変化など、抜けている部分の把握を今後さらに徹底させていくのりよくが必要である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフと定期的カンファレンスを行い、その中でケアの方法等を考えていき、受持ちスタッフによる24時間のプラン作成や修正、評価も実行している。家族とは面会を通して相談という形で話し合う場を設けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月又は変化があった時にプランを修正、再作成しており、同時に評価とモニタリングも実行している。ケアマネージャーだけではなくスタッフとのカンファレンスを基にし、更に受け持ちスタッフの評価を基本としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPの記録をとりアセスメントを取るようにつなげている。ケアプランに基づいた記録法を実践しており現場でケアプランを生かすようにファイルしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GH段独であり多機能な面は打ち出せていないが、地域やボランティアとの広い交流は保っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多種のボランティアによる行事やレクリエーション、又は外出支援を受けて充実した楽しみ事が保持できている。また、年に2回消防訓練や緊急時の対応法など勉強する機会を持っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設や居宅ケアマネジャーとも連絡や接する機会があり、話し合いや情報交換が出来ている。また、必要時は福祉用具業者と連携しサービスを決定している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの接点はほとんどなく、権利擁護も利用できていない。運営推進会議委員として入ってもらっていたが、高齢課のみの参加となった。	○	地域包括センターとGHとの接点が現状ではほとんどなく、行政の高齢課だけとの関わりとなっている。どういう部分で協働できるのか双方の統一した認識が必要。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医に関しては十分話し合うようになっている。通院継続を希望されるかホームでの往診医に変更されるか確認をしている。また、変化があればその都度相談している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	菊池病院とは連携体制をとっており、その都度相談、指導を受け、毎年認知症セミナーにも参加している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所には正看護師が常勤で3名勤務している。毎日の入居者の心身の状況は詳しく記録、及び看護師へ報告され、医師との連絡、調整もできている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されたらすぐに病院の相談員、ケアマネージャーなどと連絡を取り、早期退院に向けて状況判断をしている。必要時は病院関係者との担当者会議や退院前訪問などを行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合の看取り方針を作成し、入居前に説明し同意をとっており。事業所の方針は入居前から納得してもらい認識も共有できるように努力している。主治医も密に連絡を取り合いながら連携体制をとっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合の看取り指針で、事情所としてできることを明確に文章化している。そういうケースが出た場合は再度家族や医師とも確認を取るようにしている。ぎりぎりの段階までホームでケアしていきたいと望んでいる。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	施設や病院の相談員やケアマネージャーとは連絡を密にとり、面談もその都度している。また、望まれる情報提供も積極的に行い、できるだけダメージのない移動を心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴やトイレ介助は個別で行い、他者の目が触れないように注意している。個人情報も勉強会を施行し全員が認識できるように取り組み、守秘義務に関しての同意書を取っている。入居者に関しては、イニシャルを使用している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりが全く違うため、個人に合わせた働きかけや説明が重要であると考えている。ケアに関しては、決して無理強いしないように、本人の自己決定を待つように留意している。	○ 自分で気持ちを表出できる入居者はスタッフも理解しやすいが、表出できない入居者に対してはどうしたら表出してもらえるか、またはそれに代わる表現などを、関わりの中で知ることができるように心がけていく努力が必要。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが全く違い、また、日々や時間でも変動しているため、その時の状況を十分考慮し本人のペースに合わせるように努力している。ただ、重症化する中、全員の希望に添った支援ができる事が徐々に難しくなっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望にあわせて訪問美容が2ヶ月に1回あり、髪染めなどはスタッフが実行している。また、化粧品やヘアピンなど希望される方には常備し、衣類は本人の希望を重視している。女性が多い為おしゃれには気を使っていきたいと思っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はスタッフ全員で、全員おいしく食べていただけるよう毎日評価し、専用ノートで情報交換している。準備や後片付けでもその都度入居者と一緒に行うよう習慣化しておりとても楽しい時間となっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	パンや牛乳、スープ、ジュースなど入居者が希望されるものは、家族と話し合いきつんと準備できるようにしている。面会時は持参してもらおうなど家族の協力も得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者全員が排泄パターンはケアチェック表にて把握し、把握が困難な場合や誘導が必要な場合は、排泄チェック表を利用している。個別に考えながらできるだけ不安のない生活が送れるように努力している。排泄介助時も、さりげなく行いプライバシーの尊重に留意している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が好まれる時間に入浴できるように、また、その日の心身の状況も加えて順番を決めていくように、入浴担当者がアセスメントしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者がゆっくりとくつろいでリビングにいられるよに環境を整えており、居室で過ごされる時も過度に声かけせず見守っている。必要な方には午睡を促し、また、夜間安眠ができるように、一人ひとりの入眠パターンを把握し個別のケアを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみ等、それぞれができることや得意とすることができるように、ケアの中に取り入れている。また、楽しみを共有する意味でもレクリエーションを1日2回おこない活気が持てるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者はほとんどいないが、入居者が希望される限りは小額であろうとも持っていていただくようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節が良いときにはドライブに出かけ景色や花を楽しみ、日々の暮らしの中でも、中庭や公園に出て散歩したり日光浴をしたり、外出の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	交流のある保育園、小学校の行事に参加したり、地域のコンサートや行事等にも積極的に参加している。また、計画的にバラ祭り、植木市、初詣も毎年出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があればいつでも電話できるようになっており、家族からの手紙やはがきもよく届いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の数がとても多く、中には毎日来られる家族もある。気兼ねなく居室やリビングで過ごしていただけるように注意している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない努力をしている。してはいけないという認識はスタッフ全員持っており、カンファレンスで話し合う事もしている。	○	必要性はわかっているが、法的な書類などで根本的な所からの勉強会ができていない。また、定期的な勉強会にも取り組み必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室は開放しており、自由に入出入り出来る様にしている。離設を繰り返すなど問題が生じた時はスタッフや家族と話し合うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在は昼夜を問わず把握している。特に夜間は、定期巡視、所在確認を行い、防火関係の点検と同様に注意を払っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりにとって危険であるものを検討し、居室や周囲に置かない様にしている。その際できるだけ除去してしまわないように、最低限のものをホームで管理するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に2回の消防訓練を継続し、それと同時に救急時対応や処置について消防員の方から指導を受けている。事故にかんしてはひやり・はっと報告書を活用し事故防止への取り組みをしている。ただ、事故防止の努力はしていても誤薬や転倒事故が発生しているのが現状。	○	事故に関しては、認識、知識とも薄くならないように、継続的な教育であると考えている。リスクマネジメント係を中心として、スタッフの意識を高めていく事が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の消防訓練時、緊急対応や処置を学ぶ機会を設けたり、専用のビデオを見たりとホーム内での勉強会も行っている。	○	継続的な教育が必要である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を継続させる事と、運営推進会議の中で自治会の方と話し合いができるようになってきている。ただ、近隣の方の理解を得、その上で協力体制を作っていくことは、まだ現状では難しいところである。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者のやりたいことと危険が背中合わせである時は、必ず話し合いを持ち、ホームとしての意向と家族の希望のすり合わせをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフの一人は「リーダー」としての役割を持ち、入居者全員の心身の把握を行い、異常があればすぐに管理者へ報告しており、看護師としての判断なども仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書が常時確認できるようにファイルしており、セット時は確認しながらの操作をしている。しかし、作用や副作用等、難しい分野であるため十分な把握が難しい状況である。	○	繰り返し説明書を見ることで、一つ一つの薬を把握出来る様にしていきたい。重要な業務であるというスタッフの自覚も促していく必要がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日を通しての水分摂取促しと牛乳、ヨーグルト、繊維性の高い食品を献立に取り入れることに注意を払っている。また、体を動かす事が少ないため、1日2回のレクリエーションで体操をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけと、介助が必要な方への介助を行っている。また、週に1回の訪問歯科を利用し、必要な方の治療や口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はスタッフ全員で立て、栄養改善係が栄養バランスなどの評価を行っている。スタッフ間の情報交換のための専用ノートもあり、調理の工夫や入居者の好きなメニューなどを共有出来る様にしている。食事形態もそれぞれに合わせている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染が疑われる場合はすぐに主治医の指示を受け、他者への感染をできるだけ防ぐようにしている。食前や外出時などの手洗いの励行も日頃から実行するように注意している。また、行政からの資料を回覧し全員が目を通すようにしている。	○	マニュアル作成がまだできていないため、今後作成の準備が必要である。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきん・包丁など毎日継続的に行う消毒と、食器・配水管・加湿器など定期的に行う消毒に区分しており、そのチェック表も作成しもらわないように注意している。環境整備係がきちんと把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭のある建物で、その中に季節の木や花をふんだんに植え、いつでも観賞できるようにしている。花を見に出られることが多く、外来者もその中でくつろいでもらえるようベンチを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音は出さないように、光は季節に応じて不快のないものになっている。リビングの共有スペースは季節感や生活感が味わえるように、花やポスター、写真など毎月変えており、入居者の楽しみとなっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の気の合う同士が気兼ねなく過ごせるように、座る位置やテーブルの位置など、その都度検討しながらセッティングしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときから、できるだけ馴染みのあるものを持ってきてもらうよう説明し、本人も家族も安心されるように持参品や家具・レイアウトは全て任せている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は一日数回行い、温度や湿度に関しては温湿度計を数箇所を設置し、必ずチェックをしている。自分の感覚だけで判断し、入居者へ不快感を与えないように注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーであり、床もソフト素材になっているため、安全性は高い。必要な入居者には手すりを使用してもらえるように設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	料理手伝いができる方、洗濯たたみができる方など、その有する力に応じてスタッフが声かけし一緒に行うようにしている。また、混乱が起きない状態に自然となるように、環境を整えている。	○	「分かる力」の認識をもっと深くしていくように、日々の関わりを通して学んでいく姿勢が必要と考える。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の環境は良好であるが、ベランダがなく、洗濯干し場に出るところに段差があり、アクセスに問題がある。	○	中庭にでることで十分楽しめているが、その他の敷地へも出られるように、ハード面の検討が必要である。中期的な計画として考えている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・いろいろなボランティアの方が来られ、現在は定期的、計画的に行事を行い楽しみの共有ができています。また、近くの保育園や小学生などの訪問もあり、幅広い交流ができています。そのための交流室を設けている。
- ・近くの公園の管理組合役員を運営者自らが努め、地域貢献に力を入れている。
- ・研修は年間を通して計画的に考え、スタッフ全員が参加できるようにシフトに組み入れており、常に勉強していく取り組みをしている。
- ・季節を感じたり、外での交流を図るため中庭の環境を整え、入居者や訪問の方が安らぎ安心感をもてるように、季節ごとに花を植え替え整備している。